

研究・調査報告書

報告書番号	担当
377	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Efficacy of extended-release naltrexone in alcohol-dependent patients who are abstinent before treatment. 治療前に禁酒しているアルコール依存症患者における徐放性ナルトレキソンの有効性	
執筆者	
O'Malley SS, Garbutt JC, Gastfriend DR, Dong Q, Kranzler HR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychopharmacol. 27(5): 507-512 (2007)	
キーワード	
徐放性ナルトレキソン、アルコール依存症、治療	
要 旨	
<p>徐放性ナルトレキソン (XR-NTX) は月 1 回の投与で効果が得られる剤形で、アルコール依存症で治療開始前に禁酒している患者の治療のために FAD で承認されている薬剤である。この論文では、治療開始前に自発的に 4 日あるいはそれ以上の期間、禁酒している患者の様々な範囲の飲酒に関連した成績に関して得られた結果について示す。</p> <p>全員カウンセリングを受けているこれらの患者で、XR-NTX 380 mg を投与された場合、対照プラセボと比較してその禁酒の程度は数倍高かった。具体的には、最初に飲酒するまでの日数の中間値はプラセボで 12 日、XR-NTX で 41 日、研究終了時点での連続禁酒の程度はプラセボで 12%、XR-NTX で 32% (P=0.02) であった。プラセボと比べて XR-NTX 380 mg は最初の重度飲酒までの期間を基本的に延長し(プラセボ 20 日に対して XR-NTX では 180 日以上、P=0.04)、1 ヶ月当たりの飲酒日の中間値は 90%まで低下 (プラセボ 7.2 日に対して XR-NTX では 0.7 日、P=0.005)、1 ヶ月当たりの重度飲酒日数も 90%まで低下した (プラセボ 2.9 日に対して XR-NTX では 0.2 日、P=0.007)。さらに、XR-NTX 380 mg 投与患者群ではプラセボよりも 2 倍以上の治療効果が得られ (プラセボで 30%、XR-NTX で 70%、有効な治療効果の判定基準は連続した 28 日間で重度飲酒が 2 日以上ない場合)、γ-GTP の著明な改善 (P=0.03) が得られた。XR-NTX 190 mg 投与の成績は薬物の用量依存効果を示し、基本的に中間的なものであった。</p> <p>結論として、XR-NTX 380 mg 処置は禁酒状態を延長し、治療開始前に 4 日程度の禁酒状態であった患者の重度飲酒日や飲酒日を低下させる。XR-NTX 380 mg はアルコール依存症の治療に一定の効果をもたらすものである。</p>	